

28:1 そのころ、ペリシテ人はイスラエルと戦おうとして、軍隊を召集した。アキシュはダビデに言った。「承知してもらいたい。あなたと、あなたの部下は、私と一緒に出陣することになっている。」

28:2 ダビデはアキシュに言った。「では、しもべがどうするか、お分かりになるでしょう。」アキシュはダビデに言った。「では、あなたをいつまでも、私の護衛に任命しておこう。」

28:3 サムエルはすでに死に、全イスラエルは彼のために悼み悲しみ、彼を彼の町ラマに葬っていた。一方、サウルは国内から霊媒や口寄せを追い出していた。

28:4 ペリシテ人は集まって、シュネムに来て陣を敷いた。サウルは全イスラエルを召集して、ギルボアに陣を敷いた。

28:5 サウルはペリシテ人の陣営を見て恐れ、その心は激しく震えた。

28:6 サウルは【主】に伺ったが、【主】は、夢によっても、ウリムによっても、預言者によってもお答えにならなかった。

28:7 サウルは家来たちに言った。「霊媒をする女を探して来い。私が彼女のところに行って、彼女に尋ねてみよう。」家来たちはサウルに言った。「エン・ドルに霊媒をする女がいます。」

28:8 サウルは変装して身なりを変え、二人の部下を連れて行った。彼らは夜、女のところにやって来た。サウルは言った。「私のために霊媒によって占い、私のために、私が言う人を呼び出してもらいたい。」

28:9 女は彼に言った。「あなたは、サウルが

この国から霊媒や口寄せを断ち切ったことをご存じのはずです。それなのに、なぜ、私のいのちに罫をかけて、私を殺そうとするのですか。」

28:10 サウルは【主】にかけて彼女に誓って言った。「【主】は生きておられる。このことにより、あなたが咎を負うことは決してない。」

28:11 女は言った。「だれを呼び出しましょうか。」サウルは言った。「私のために、サムエルを呼び出してもらいたい。」

28:12 女はサムエルを見て大声で叫んだ。女はサウルに言った。「あなたはなぜ、私をだましたのですか。あなたはサウルですね。」

28:13 王は彼女に言った。「恐れることはない。何を見たのか。」女はサウルに言った。「神々しい方が地から上って来るのを見ました。」

28:14 サウルは彼女に尋ねた。「どのような姿をしておられるか。」彼女は言った。

「年老いた方が上って来られます。外套を着ておられます。」サウルは、その人がサムエルであることが分かって、地にひれ伏し、拝した。

サウルは恐れからまたも罪を犯しました。霊媒は主によって固く禁じられている行為です。死者の「これをくださった主のもとに帰る」のですから、霊媒によって呼び出されるわけではなく、それは悪霊との交わりだからです。

サムエルが現れたようではありますが、悪霊かトリックか何かであったでしょう。しかしまるでサムエルが神の御心を語ったかのような記述が次節からあります。神様が惑わしのわざさえも用いられたのかもしれませんが。

不信仰な者が悪霊の手先とともにしたことですが、主はその中でも真理を表されたのでしよう。霊を見分けましょう。聖書によって裏づけがあるかどうかです。また正しい信仰の共同体によって受け入れられているかどうかも重要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

